

学校名 川島町立川島中学校
所在地 比企郡川島町白井沼230
電話 049-297-0112

1 本校の概要

川島中学校は、埼玉県中部に位置する人口約2万人の町、川島町にある。本年度で開校63年目を迎える地域に根ざした学校である。1年生79名、2年生64名、3年生80名、合計223名の生徒が在籍している。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・読書に親しむ態度や読書週間に関わる取組
- ・学校図書館等の環境整備の工夫
- ・家庭や地域との連携

(2) 実践の概要

ア 毎朝の読書時間の確保

平日朝8:30から10分間、日課の中に「読書の時間」を設け、全校として読書の習慣づけを図っている。またこの時



間に養護教諭が「絵本の読み聞かせ」を実施し、豊かな情操をはぐくむ取組を行っている。

イ 図書だよりの定期作成・発行

毎月行われる図書委員会にて記事の割り振りを行い、おすすめ図書の紹介や図書室の利用促進、図書についてのアンケートなどを掲載した図書だよりを発行して読書への関心を高めている。

ウ 内容別コーナーの設置

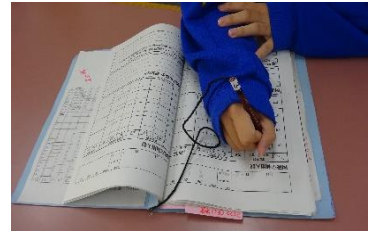
図書アンケートに「目的の本が探しにくい」という意見が挙がったため、利用者によりわかりやすいようにPOP表記を工夫して利用しやすい環境を整えている。



エ 図書室利用状況の確認

利用者に偏りがあると考えられたため、毎日図

書委員が利用者を目視確認し、見える化してみた。利用状況の内容は図書だよりの記事にしたり、コーナー作成の目安としたりした。



3 成果と今後の課題

(1) 成果

ア 生徒によっては、おおむね1ヶ月3冊～5冊程度を読むようになった。また、読み聞かせの後日アンケートでは「このような場は初めてだったので新鮮だった」「朝から優しい気持ちになれた」という肯定的な意見が多く出た。コロナ禍により活動の機会が減っているが、今後も継続していくつもりである。

イ 図書だよりの記事を読んだ生徒が図書室に本を借りに来るようになり、利用促進につながった。また町立図書館でのイベント記事を図書だよりに掲載することで地域連携にもつながった。

ウ 来室した生徒が、特に新刊を手取るケースが増えた。

エ 昨年度実績は来室者1543名に対し、貸出者157名(貸出率10.2%)で、貸出以外の目的で図書室を利用する傾向が高いことがわかった(主に自主学習目的)。利用人数を把握することで新たな方策を立てることができたため、引き続き来室調査をしていく。

(2) 課題

今年度はコロナ禍により、生徒の活動機会が減り、実践自体が難しかった。貸出図書の消毒対応に追われたが、今後も同様の対応を余儀なくされると予想されるため、図書委員に対応方法をうまく引き継いでいくことが活動機会増につながると考えている。

(3) おわりに

読書活動は、生徒が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。今後も全校生徒が図書室を利用していけるよう工夫・改善を図っていく所存である。